分野	専門分野Ⅱ	単位数	1	時間数	15
授業科目	成人看護学概論Ⅰ （成人の発達段階に応じた看護）	学年・時期	1学年・前期		
担当講師 （実務経験）	専任教員 （成人看護領域臨床実務経験有）				
科目目標	成人各期の特徴を理解し、勤労者と家族の生活を支える成人看護の意義と役割をについて学ぶ。				

回数	時間	授業内容	授業方法	担当講師
1	2	成人期の対象とは、ライフサイクルにおける成人期	講　義	専任教員 （成人看護領域臨床実務経験有）
2	2	青年期・壮年期の身体的、心理・社会的特徴　①レポート提出	グループワーク	
3	2	中年期の身体的、心理・社会的特徴、各期の発達課題　： エリクソン、ハヴィガースト	グループワーク発表 講　義	
4	2	成人期の生活：家族形態の変化と役割,仕事,日常生活 （食・運動・喫煙・アルコール・休息）	講　義	
5	2	生活と健康：経済状態、死亡の動向、受療率など統計、社会・自然環境と健康	講　義	
6	2	生活と健康を守るシステム①保健・医療・福祉システムの概要 （健康増進法、がん対策、感染症対策、医療法）	講　義	
7	2	生活と健康を守るシステム②保健医療福祉システムの連携 （障害福祉・高齢者福祉）	講　義	
8	1	終講試験		

評価方法	①終講試験(90点満点) ②レポート(10点満点)：レポート課題は講義中に指示する。 ①②の成績の合計（100点満点）で評価する。
評価基準	60点以上で合格　60点未満の場合再試験
テキスト	成人看護学［1］成人看護学総論（医学書院） 国民衛生の動向（厚生衛生協会）

分野	専門分野Ⅱ	単位数	1	時間数	30
授業科目	成人看護学概論Ⅱ （成人の健康段階に応じた看護）	学年・時期	1学年・後期		
担当講師 （実務経験）	専任教員 （成人看護領域臨床実務経験有）				
科目目標	各健康段階における成人期の身体的、心理、社会的特徴を知る。そして、勤労者である成人期の特徴を踏まえ、各健康段階に応じた看護に必要な知識・技術・態度について学ぶ。				

回数	時間	授業内容	授業方法	担当講師
1	2	ヘルスプロモーションと看護（健康の保持増進、疾病の予防における看護）	講　義	専任教員 （成人看護領域臨床実務経験有）
2	2	健康バランスに影響を及ぼす要因、勤労者の生活行動がもたらす健康問題とその予防 看護学生の健康管理（自己の生活アセスメント）　レポート1	講　義	
3	2	健康の急激な破綻から回復を促進する看護（急性期）：急性期の特徴、治療と対象理解	講　義	
4	2	健康の急激な破綻から回復を促進する看護（急性期）：合併症予防と早期回復	講　義	
5	2	ボディイメージの変化に対する看護、危機状況への看護、コーピング：事例提示	講　義	
6	2	危機状況への看護：事例展開	演　習	
7	2	慢性病との共存を支える看護（慢性期）：慢性病患者の理解	講　義	
8	2	慢性病との共存を支える看護（慢性期）：慢性病との共存を支える看護の実践	講　義	
9	2	障害がある人の生活とリハビリテーション：（回復期）：障害がある人とリハビリテーション	講　義	
10	2	障害がある人の生活とリハビリテーション：（回復期）：障害がある人とその生活を支援する看護実践	講　義	
11	2	人生の最期のときを支える看護（終末期）：人生の最期のときにおける医療の現状	講　義	
12	2	人生の最期のときを支える看護（終末期）：人生の最期のときを過ごしている人の理解	講　義	
13	2	人生の最期のときを支える看護（終末期）：人生の最期とのときを支える看護 レポート2	講　義 VTR	
14	2	療養の場を移行する人々への看護技術	講　義	
15	2	まとめ　終講試験		

評価方法	①終講試験（80点満点） ②レポート1．2(20点満点） ①②の成績の合計（100点満点）で評価する。
評価基準	60点以上で合格　60点未満の場合再試験
テキスト	成人看護学［1］成人看護学総論（医学書院） 成人看護学［4］臨床看護総論（医学書院） 国民衛生の動向（厚生労働統計協会） 改訂2版看護学生のためのﾍﾙｽ･ｱｾｽﾒﾝﾄ･ﾊﾝﾄﾞﾌﾞｯｸ（メディカ出版）

分野	専門分野Ⅱ	単位数	1	時間数	15
授業科目	成人臨床看護Ⅰ （成人健康教育技法）	学年・時期	1学年・後期		
担当講師 （実務経験）	専任教員 （成人看護領域臨床実務経験有）				
科目目標	勤労者の健康の保持増進、疾病の自己管理のための教育に必要な基本的知識・技術・態度について学ぶ。				

回数	時間	授業内容		授業方法	担当講師
1	2	セルフマネジメントとは	1)「指導型」と「学習援助型」の考え方 2)セルフマネジメント支援の構成要素と主要概念 3)必要とされる看護職の能力と責任 予習：教科書P14～28　　復習：成人看護学概論Ⅱ キーワード：セルフマネジメントモデル、パートナーシップ、シンプトンマネジメント、サインマネジメント、ストレスマネジメント、セルフモニタリング	講　義	専任教員 （成人看護領域臨床実務経験有）
2	2	セルフマネジメントのための対象理解 成人教育学 エンパワメントモデル	1)本人と病気の位置関係モデル：4つのタイプ 2)コンプライアンスとアドヒアランス、コンコーダンスの概念と違い 3)健康信念モデルとは 4)成人期の学習の特徴 5)成人教育者の役割 6)エンパワメントアプローチ：方法、実践、支援者の役割 キーワード：危機感、動機づけ、パワレスネス	講　義	
3	2	自己効力理論	1)効力予期と結果予期 2)効力予期と結果予期の高低による4パターン：行動、情動的状態 3)自己効力を高める4つの情報源 4)指導者の自己効力 キーワード：遂行行動の達成、代理的経験、言語的説得、生理的・情動的状態、教師効力	講　義	
4	2	コミュニケーション理論 対象理解	1)コミュニケーションとは 2)コミュニケーションの形態・方法 3)援助者の役割 4)情報収集するための知識・技術、セルフマネジメント支援に必要な情報	講　義	
			1)患者・看護師・観察者3人Gを作成し、事例展開を行い、ラポールの形成と問題を特定を行う	ロールプレイ	
			課題レポート①：ロールプレイ後の振り返り、評価 提出日：　　年　　月　　日（課題レポート評価点：5点） キーワード：言語コミュニケーション、非言語コミュニケーション、知的コミュニケーション、行動的コミュニケーション		
5	2	援助方法①	1)前回のGで事例展開。患者のやる気を引き出し、問題の具体化とプランの立案を行う 課題レポート②：ロールプレイ後の振り返り、評価 提出日：　　年　　月　　日（課題レポート評価点：5点）	ロールプレイ	
6	2	援助方法②	1)前回のGで事例展開。プランの立案、パンフレットを使用した教育を行う 課題レポート③：ロールプレイ後の振り返り、評価 提出日：　　年　　月　　日（課題レポート評価点：5点） パンフレット提出日：　　年　　月　　日 （7回目の前日）	ロールプレイ	

分野	専門分野Ⅱ	単位数	1	時間数	15
授業科目	成人臨床看護Ⅰ （成人健康教育技法）	学年・時期	1学年・後期		
担当講師 （実務経験）	専任教員 （成人看護領域臨床実務経験有）				
科目目標	勤労者の健康の保持増進、疾病の自己管理のための教育に必要な基本的知識・技術・態度について学ぶ。				

回数	時間	授業内容		授業方法	担当講師
7	2	評価方法	1）評価と行動変容の維持、ソーシャルサポート 課題レポート④：全体の評価 提出日：　　年　　月　　日（課題レポート評価点：5点） パンフレット提出日：　　年　　月　　日（評価点：10点） 1）評価の時期 2）目標と行動の両方の評価 3）次の計画につなげる評価	ロールプレイ 講　義	専任教員 （成人看護領域臨床実務経験有）
8	1	終講試験			
評価方法		①終講試験(70点満点) ②レポート①～④ （20点満点） ③パンフレット　（10点満点） ①～③の成績の合計（100点満点）で評価する。			
評価基準		60点以上で合格　60点未満の場合再試験			
テキスト		ﾅｰｼﾝｸﾞｸﾞﾗﾌｨｶ　成人看護学　セルフマネジメント（安酸史子他：メディア出版）			

分野	専門分野Ⅱ	単位数	1	時間数	30
授業科目	成人臨床看護Ⅱ （呼吸・循環・消化器障害看護）	学年・時期	2学年前期・後期		
担当講師 （実務経験）	専任教員 （成人看護領域臨床実務経験有）				
科目目標	呼吸器、循環器、消化器障害が、成人期（勤労者）にある対象者に及ぼす影響を、身体的、心理・社会的側面から捉え、患者と家族を含めた健康上の問題をアセスメントし、看護の実践方法を学ぶ。				

回数	時間	授業内容		授業方法	担当講師
1	2	循環器看護	循環器障害をもつ対象の特徴、看護の役割（疾病の経過含む）	講　義	専任教員 （成人看護領域臨床実務経験有）
2	2		検査及び治療を受ける患者の看護 ・心臓カテーテル検査及び治療　・薬物療法を受ける患者の看護	講　義	
3	2		虚血性心疾患患者の看護｛心筋梗塞、（心電図変化含む）狭心症｝	講　義	
4	2		心不全患者の看護（急性心不全、慢性心不全）	講　義	
5	2		ペースメーカーを装着した患者の生活と看護、心臓リハビリテーション	講　義	
1	2	消化器看護	消化器障害をもつ対象の特徴、看護の役割、胃癌患者の看護①（事例提示）	講　義	
2	2		胃癌で手術を受ける患者の看護②　事例展開	グループワーク 発　表	
3	2		大腸癌で手術を受ける患者の看護	講　義	
4	2		急性膵炎患者の看護、肝硬変患者の看護①	講　義	
5	2		肝硬変患者の看護②（食道静脈瘤含む）	講　義	
1	2	呼吸器看護	呼吸器障害をもつ患者の特徴、看護の役割（疾病の経過含む）、結核患者の看護 COPD課題提示	講　義	
2	2		肺炎・慢性閉塞性肺疾患（COPD）患者の看護①　事例展開	講　義 グループワーク	
3	2		肺炎・慢性閉塞性肺疾患（COPD）患者の看護②　事例展開	グループワーク 発　表	
4	2		自然気胸の患者の看護（胸腔ドレナージ含む）	講　義 VTR	
5	2		肺癌で手術を受ける患者の看護	講　義	
		終講試験			

評価方法	終講試験の成績（100点満点）で評価する。
評価基準	60点以上で合格　60点未満の場合再試験
テキスト	成人看護学〔3〕循環器（医学書院） 成人看護学〔5〕消化器（医学書院） 成人看護学〔2〕呼吸器（医学書院）

分野	専門分野Ⅱ	単位数	1	時間数	30
授業科目	成人臨床看護Ⅲ （内分泌･代謝･腎泌尿器･造血器障害看護）	学年・時期	2学年前期・後期		
担当講師 （実務経験）	非常勤講師　（糖尿病看護認定看護師） 非常勤講師　（がん化学療法看護認定看護師）　専任教員				
科目目標	内分泌・代謝・腎泌尿器・造血器障害が、生産的役割のある成人期にある対象者に及ぼす影響を、身体的、心理・社会的（勤労者の）側面から捉え、健康上の問題をアセスメントし、看護の実践方法を学ぶ。				

回数	時間	授業内容		授業方法	担当講師
1	2	内分泌・代謝看護	患者の特徴と看護の役割、糖尿病患者の看護	講　義	非常勤講師 （糖尿病看護認定看護師）
2	2		糖尿病患者の看護（自己注射デモ含む）、高脂血症・痛風患者の看護	講　義	
3	2		甲状腺機能亢進症（バセドウ）患者の看護 甲状腺手術を受ける患者の看護	講　義	
4	2		下垂体疾患（クッシング病）、副腎疾患（アルドステロン症）患者の看護	講　義	
1	2	血液・造血器障害・アレルギー障害・膠原病看護	患者の特徴と看護の役割、全身性エリテマトーデス患者の看護	講　義	専任教員
2	2		慢性関節リウマチ患者の看護	講　義	
3	2		貧血・出血傾向（DIC含む）・易感染患者の看護	講　義	非常勤講師 （がん化学療法看護認定看護師）
4	2		白血病患者の看護	講　義	
1	2	腎・泌尿器障害看護	患者の特徴と看護の役割、検査・処置時の看護 排尿障害のある患者の看護	講　義	専任教員
2	2		前立腺肥大・腫瘍患者の看護（手術療法時の看護）	講　義	
3	2		尿路変更術を受けた患者の看護	講　義	
4	2		慢性腎不全、透析療法患者の看護	講　義	
1	2	感染症看護	スタンダードプリコーション、感染経路に対応した感染予防 患者の特徴と看護の役割	講　義	
2	2		肝炎患者の看護、HIV感染症患者の看護	講　義	
3	1		院内感染（MRSA感染）患者の看護	講　義	
	1	終講試験			

評価方法	終講試験の成績（100点満点）で評価する。
評価基準	60点以上で合格　60点未満の場合再試験
テキスト	成人看護学〔6〕内分泌・代謝（医学書院） 成人看護学〔4〕血液・造血器（医学書院） 成人看護学〔8〕腎・泌尿器（医学書院） 成人看護学〔11〕アレルギー、膠原病、感染症（医学書院） 成人看護学〔2〕消化器（医学書院）

分野	専門分野Ⅱ	単位数	1	時間数	30
授業科目	成人臨床看護Ⅳ （運動器・脳神経・感覚器障害看護）	学年・時期	2～3学年		
担当講師 （実務経験）	専任教員 （成人看護領域臨床実務経験有）				
科目目標	運動器・脳神経・感覚器障害が、成人期(勤労者)にある対象者に及ぼす影響を、身体的、心理・社会的側面から捉え、健康上の問題をアセスメントし、看護の実践方法を学ぶ。				

回数	時間	授業内容		授業方法	担当講師
1	2	運動器障害看護	患者の特徴：身体（疼痛・変形・機能障害）・精神・社会的（生活者としての）問題、看護の役割、経過に応じた看護	講　義	専任教員 （成人看護領域臨床実務経験有）
2	2		保存療法を受ける患者の看護：ギブス固定・牽引療法、 四肢切断患者の看護	講　義	
3	2		勤労者の生活と腰椎椎間板ヘルニア患者の看護：治療（牽引・コルセット・手術）に伴う看護、変形性関節症患者の看護	講　義	
4	2		脊髄損傷患者の危機理論を活用した看護（急性期～維持期）	講　義	
5	2		三角枕使用による寝衣交換、弾性ストッキングの着脱、下肢シーネ固定、軟性コルセット・カラー・ニーブレスの着脱及び移動介助	演　習	
6	1		①運動器障害看護　終講試験	講　義	
1	2	脳神経障害看護	脳神経障害患者の特徴と看護の役割、疾病の経過と看護 意識障害、痙攣、頭蓋内圧亢進症状のある患者の看護	講　義	
2	2		脳梗塞患者の看護：保存的治療に伴う看護、脳内出血患者の看護	講　義	
3	2		くも膜下出血患者の看護：手術療法に伴う看護　　脳腫瘍患者の看護	講　義	
4	2		神経・筋疾患患者の看護(パーキンソン、ALS、多発性硬化症、髄膜炎、重症筋無力症)	講　義	
1	2	感覚器障害看護	眼障害：患者の特徴と看護の役割、症状に対する看護（視力・視野障害など）、検査を受ける患者の看護（眼底検査）治療、処置を受ける看護（患者誘導・介助法）	講　義	
2	2		眼障害：疾患を持つ患者の看護①白内障患者の看護：手術療法に伴う看護 ②緑内障	講　義	
3	2		眼障害③網膜剥離④糖尿病性網膜症患者の看護	講　義	
			耳鼻障害：患者の特徴と看護の役割、症状に対する看護（耳鳴・鼻出血・嗅覚障害）、検査時の看護（聴力・平衡感覚検査・咽頭・喉頭のファイバースコープ検査・味覚検査）		
4	2		耳鼻障害：疾患を持つ患者の看護①メニエール病患者の看護②突発性難聴	講　義	
5	2		耳鼻障害：③慢性副鼻腔炎④喉頭癌患者の看護（咽頭・喉頭摘出術）	講　義	
1	1	②脳神経及び感覚器障害看護の終講試験			

評価方法	①②の終講試験の成績の合計（100点満点）で評価する。
評価基準	60点以上で合格　60点未満の場合再試験
テキスト	成人看護学〔10〕運動器（医学書院） 成人看護学〔7〕脳・神経（医学書院） 成人看護学〔13〕眼（医学書院） 成人看護学〔14〕耳鼻咽喉（医学書院）

成人看護学実習Ⅰ　実習計画

目的：身体及び心理状態の変化しやすい時期にある患者とその家族を理解し、回復を促進するための看護を展開する能力を養う。

目標：1．急性期にある患者及び家族についてアセスメントし、看護上の問題点を抽出し、看護診断することができる。
2．侵襲的治療を受けた患者の回復を促進するための計画を立案し、実践できる。
3．看護過程に沿って評価ができる。
4．医療チームにおける看護の役割を認識し、実践できる。

週数	日数	月日	曜日	場所	時間	実習予定	実習内容	備考
1週目	1	/		病院	臨地実習 8:30～15:15 学内実習 15:30～17:00	オリエンテーション 受け持ち患者決定 情報収集 又は電子カルテから情報収集	・病態生理・治療・看護についての事前学習に基づき身体アセスメントに必要な情報を意図的に収集する。 ・必要に応じて自己の実習目標の修正を行う。 ・実習が効率よく進むよう必要な情報を得る。 （病棟のスケジュールや構造、特徴・物品の使用目的および留意点についてなど）	※病棟の物品点検： 貸し出し物品点検：週はじめ・終わりに教員と点検 （その他の日：帰校後学生間で点検
	2	/			臨地実習 8:30～15:15 学内実習 15:30～17:00	環境整備・検温 データベース整理	・既習の知識・事前学習を活用し、根拠に基づいた観察・検温を行う。 ・援助計画に基づいて、指導の下、急性期状態にある患者の援助を行う。 ・収集した情報の関連付けを行い、3側面から全体像のアセスメントを行い、看護上の問題点を抽出する。 ・全体像の指導を受け、看護上の問題点と優先順位の確認を行う。	
	3	/			臨地実習 8:30～15:15 学内実習 15:30～17:00	データベースの整理 ＊全体像の記録提出		
	4	/			臨地実習 8:30～15:15 学内実習 15:30～17:00	＊看護計画の記録提出 看護計画に沿った実践	・<u>看護診断・目標・計画の指導を受ける。</u> （1週目に治療方針、看護方針の確認を行い、病棟の方針に基づき計画を立案する。） ・看護計画に基づいた援助を行う。 ➔＜記録整理＞1事例目の学びと課題を整理する。	（カンファレンス準備）
2週目	5	/		病院	臨地実習 8:30～15:15 学内実習 15:30～17:00	看護計画に沿った実践	・看護計画に基づき、患者の状態に応じて看護技術を応用しながら援助を行う。 ・日々の看護実践を評価し、より患者の状態に応じた援助方法に修正する。 ・看護の方向性、学習内容の補足を行う。 ・社会復帰に向けて生活習慣の変更と再構築のための生活指導について考える。また、援助に向けた行動をとる。 ・実践に対する対象者の反応・変化を観察し、実践を振り返る。 ・自己の実習を評価し、後半の課題を明確化する。 ・病棟で行われている治療・検査・処置時の看護について学ぶ。（実践or見学）また、体験可能な技術を指導のもと実践する。	※同上 カンファレンスの学び、中間評価を教員に提出
	6	/				中間総括（予）		
	7	/				適宜、看護計画の提出 看護技術・処置・検査等の見学または実践		
	8	/						
3週目	9	/		病院	臨地実習 8:30～15:15 学内実習 15:30～17:00	・適宜記録の指導を受ける。	・患者の状態に応じて計画を追加・修正し、個別性に応じた工夫をしながら援助を行う。（援助方法や看護用具の工夫） ・退院に向けて患者・家族に必要な指導を行う。また、患者に必要な社会資源の活用について学ぶ。 ・3週間の実習を通しての実践や学びを振り返り、実習目標の達成度や課題を明確にする。	※同上
	10	/						
	11	/				最終カンファレンス	カンファレンスを実施し、実習目標の達成度と課題を明確にする。	
	12	/		学内実習	学内実習 8:30～17:00	記録整理および提出		技術経験録・受持ち患者一覧を整理

成人看護学実習Ⅱ　実習計画

目的：生涯にわたり疾病の自己管理が必要な患者及び家族を理解し、セルフケア能力を高め、日常生活の拡大を図るための看護を展開する能力を養う。

目標：1．慢性期にある患者及び家族についてアセスメントし、看護上の問題点を抽出し、看護診断することができる。
2．患者の身体状態が安定し、自己管理ができるための看護計画を立案し、実践できる。
3．看護過程に沿って評価ができる。
4．医療チームにおける看護の役割を認識し、実践できる。

週数	日数	月日	曜日	場所	時間	実習予定	実習内容	備考
1週目	1	／		病院	臨地実習 8:30～15:15 学内実習 15:30～17:00	オリエンテーション 受け持ち患者決定 情報収集 又は電子カルテから情報収集	・事前学習の知識をもとに、意図的に情報収集を行う。（カルテから情報収集を行う） その他の時間はグループで活動する。 （例：午後、患者に必要な援助の演習を学内で行い、技術を高めて翌日に活かすなど）	※病棟の物品点検： 貸し出し物品点検：週はじめ・終わりに教員と点検 （その他の日：帰校後学生間で点検
	2	／				（オリエンテーション） 情報収集 患者紹介 環境整備・検温 データベース整理 カンファレンス （学内）	・意図的に情報を収取する。 （カルテ・コミュニケーション・ケアの参加などから ・病棟のスケジュールや構造、特徴など実習が効率的に進むために必要な情報を得る。 ・必要に応じて実習目標の修正を行う。 ・計画に基づき、検温を行う。（呼吸音・心音は指導者と共に観察する） ・援助計画に基づいて、指導の下患者に必要な援助を実施する。 ・食事場面の見学やケアに参加してADL状況や援助を実践する際の留意点を把握する。	
	3	／				データベースの整理 ＊全体像の記録提出	・全体像の指導を受け、<u>看護上の問題点と優先順位の確認を行う。</u> ・情報の関連づけを行い、3側面から全体像のアセスメントを行い、看護上の問題点を抽出する。 ・1週目に治療方針及び看護方針を確認する。	
	4	／				＊看護計画の記録提出 看護計画に沿った実践	・<u>看護診断・目標・計画の指導を受ける。</u> ・フォーカスアセスメント・看護診断・目標・計画の指導を受け、情報の関連統合や看護診断・計画内容について追加・修正を行う。	（カンファレンス準備）
2週目	5	／		病院	臨地実習 8:30～15:15 学内実習 15:30～17:00	看護計画に沿った実践	・看護計画に基づき、患者の状態に応じて看護技術を応用しながら援助を行う。 ・日々の看護実践を評価し、より患者の状態に応じた援助方法に修正する。 ・退院支援のカンファレンスに参加し、医療チームにおける看護の役割について学びを深める。 ・患者指導ではセルフケアを障害している因子（患者の認識）に着目して生活者として主体的にセルフマネージメントできるよう支援する。 ・実践に対する対象者の反応・変化を観察し、実践を振り返る。 ・自己の実習を評価し、後半の課題を明確化する。 ・4東・6東・6西で行われている治療・検査・処置時の看護について学ぶ。（実践or見学）また、体験可能な技術を指導のもと実践する。 （心カテ検査など：学生の実習状況に応じて）	※同上
	6	／				中間総括（予）		
	7	／				適宜、看護計画の提出 看護技術・処置・検査等の見学または実践		カンファレンスの学び、中間評価を教員に提出
	8	／						
3週目	9	／		病院	臨地実習 8:30～15:15 学内実習 15:30～17:00	・適宜記録の指導受ける。	・患者の状態に応じて計画を追加・修正し、個別性に応じた工夫をしながら援助を行う。（援助方法や看護用具の工夫） ・退院に向けて患者・家族に必要な指導を行う。また、患者に必要な社会資源の活用について学ぶ。 ・3週間の実習を通しての実践や学びを振り返り、実習目標の達成度や課題を明確にする。	※同上
	10	／						
	11	／				最終カンファレンス	・カンファレンスを実施し、実習目標の達成度と課題を明確にする。	
	12	／		学内実習	学内実習 8:30～17:00	記録整理および提出		技術経験録・受持ち患者一覧を整理

成人看護学実習Ⅲ　実習計画

目的：疾病からの回復が望めない患者とその家族の全人的苦痛を理解し、その人らしく生を全うできるようなQOL向上のための看護を展開する能力を養う。

目標：1．終末期にある患者及び家族についてアセスメントし、看護上の問題点を抽出し、看護診断 することができる。
2．患者が安楽に、かつその人らしく生を全うできるようなQOL向上のための看護計画を立案し、実践できる。
3．看護過程に沿って評価ができる。
4．医療チームにおける看護の役割を認識し、実践できる。
5．看護を通して生命の尊厳と自己の死生観について考えることができる。

週数	日数	月日	曜日	場所	時間	実習予定	実習内容	備考
1週目	1	/		病院	臨地実習 8:30～15:15 学内実習 15:30～17:00	オリエンテーション 受け持ち患者決定 カルテから情報収集 学生間カンファレンス 演習	・事前学習の知識をもとに、意図的に情報収集を行う。 （カルテからの患者の状態を知る） ・午後：テーマに基づき学内でカンファレンスを行う。 ・患者に必要な援助の演習を学内で行い、技術を高めて翌日に活かす	※病棟の物品点検： 貸し出し物品点検：週はじめ・終わりに教員と点検 （その他の日：帰校後学生間で点検
	2	/				（オリエンテーション） 情報収集 患者紹介 データベース整理	・意図的に情報を収取する。 （カルテ・コミュニケーション・ケアの参加などから） ・必要に応じて実習目標の修正を行う。 ・援助計画に基づいて、指導の下、患者に必要な援助を実施する。 ・収集した情報の関連付けを行い、3側面から全体像のアセスメントをし、看護上の問題点を抽出する。 ・全体像の指導を受け、看護上の問題点と優先順位の確認を行う。（治療方針・看護方針確認） ・ﾌｫｰｶｽｱｾｽﾒﾝﾄをし、看護診断・目標・計画の立案を行う。	
	3	/				データベースの整理 ＊全体像の記録提出		
	4	/				＊看護計画の記録提出 看護計画に沿った実践	・<u>看護診断・目標・計画の指導を受ける。</u> ・看護計画に基づいた援助を行う。	（カンファレンス準備）
2週目	5	/		病院	臨地実習 8:30～15:15 学内実習 15:30～17:00	看護計画に沿った実践	・看護計画に基づき、患者の状態に応じて看護技術を応用しながら援助を行う。 ・日々の看護実践を評価し、より患者の状態に応じた援助方法に修正する。 ・看護の方向性、学習内容の補足の確認 ・自己の実習を評価し、後半の課題を明確化する。 ・病棟で行われている治療・検査・処置時の看護について学ぶ。（実践or見学）また、体験可能な技術を指導のもと実践する。	※同上 カンファレンスの学び、中間評価を教員に提出
	6	/				中間総括（予）		
	7	/				適宜、看護計画の提出 看護技術・処置・検査等の見学または実践		
	8	/						
3週目	9	/		病院	臨地実習 8:30～15:15 学内実習 15:30～17:00	・適宜記録の指導受ける。	・状態に応じて計画を追加・修正し、その人らしさを考え、QOL向上のための援助を実践する。 ・2週目に準じて未体験技術や治療・処置・検査を事前学習を踏まえて実践または見学する。 ・キーワード学習を踏まえ、事例を通して学んだこと、自己の考えを整理する。 ・3週間の実習を通しての実践や学びを振り返り、実習目標の達成度や課題を明確にする。	※同上
	10	/						
	11	/				最終カンファレンス	・カンファレンスを実施し、実習目標の達成度と課題を明確にする。 ・「尊厳死」と自己の「死生観」についての考えをレポートA4サイズ１枚に整理する。	
	12	/		学内実習	学内実習 8:30～17:00	記録整理および提出		技術経験録・受持ち患者一覧を整理